

令和2年

火災・救急・救助統計



伊万里・有田消防本部

はじめに

この統計は、当消防本部が管轄する伊万里市及び有田町における火災・救急・救助の出動に関する状況を収録し、消防行政を広く一般に紹介するとともに、合理的な運営資料とするために編集したものです。

統計資料は、令和2年1月1日から令和2年12月31日までの1年間の状況を示しています。

本統計により、消防行政に対する御理解を賜り、地域防災の推進に活用していただければ幸いです。

伊万里・有田消防本部

目 次

統計の概要（火災・救急・救助）	・・・	1～3
第Ⅰ章 火 災		
第Ⅰ - 1表 火災概要と前年比較	・・・	4
第Ⅰ - 2表 地区別火災発生状況	・・・	5
第Ⅰ - 3表 地区別月別火災発生状況	・・・	6
第Ⅰ - 4表 月別・曜日別火災発生状況	・・・	7
第Ⅰ - 5表 時刻別火災発生状況	・・・	8
第Ⅰ - 6表 建物用途別火災発生状況	・・・	9
第Ⅰ - 7表 出火原因別火災発生状況	・・・	10
第Ⅰ - 8表 出火原因別火災発生状況（過去5年間）	・・・	11
第Ⅰ - 9表 伊万里市における過去10年間の火災発生状況	・・・	12
第Ⅰ - 10表 有田町における過去10年間の火災発生状況	・・・	13
第Ⅱ章 救急		
第Ⅱ - 1表 救急出動件数・搬送人員	・・・	14
第Ⅱ - 2表 各町（地区）別救急出動件数・搬送人員	・・・	15
第Ⅱ - 3表 救急出動件数及び搬送人員の推移	・・・	16
第Ⅱ - 4表 年齢区分別・事故種別搬送人員	・・・	17
第Ⅱ - 5表 出動指令から現場到着までの所要時間	・・・	17
第Ⅱ - 6表 出動指令から医療機関収容までの所要時間	・・・	17
第Ⅱ - 7表 事故種別・傷病程度及び性別搬送人員の状況	・・・	18
第Ⅱ - 8表 急病に係る疾病分類別・傷病程度別搬送状況	・・・	18
第Ⅱ - 9表 救急隊員が行った応急処置等の状況	・・・	19
第Ⅲ章 救助		
第Ⅲ - 1表 地区別種別救助出動件数	・・・	20
第Ⅲ - 2表 地区別種別救助人員	・・・	20
第Ⅲ - 3表 救助活動の状況（過去5年間）	・・・	21

火 災

火災の現況

令和2年中の管内における火災発生件数は、伊万里市30件（25件）、有田町9件（12件）の合計39件（37件）で、前年より2件の増加となりました。

※（ ）内の数字は、前年（令和元年中）の数字を表します。

1 発生状況

火災種別の内訳は、建物火災20件（14件）、その他の火災10件（11件）、林野火災5件（8件）、車両火災4件（4件）となっています。

2 出火原因

出火原因別では、火入れが10件と最も多く、次いでごみ焼き5件、配線器具3件、石油バーナー2件などとなっています。

3 損害額

火災による損害額は158,219千円（195,900千円）で、前年と比較し37,681千円の減少となりました。

4 建物焼損状況及び焼損程度

建物火災の件数は20件（14件）で、焼損棟数は30棟（15棟）、焼損面積は2,476㎡（2,204㎡）で、前年と比較し焼損棟数は15棟の増加、焼損面積は272㎡の増加となりました。

5 り災世帯・り災人員

り災世帯数は21世帯（12世帯）、り災人員47人（25人）で前年と比較し、り災世帯数は9世帯の増加、り災人員は22人増加となりました。

6 死傷者の発生状況

火災による死者は2人（2人）、負傷者は9人（4人）で前年と比較し、死者は同数で、負傷者は5人増加しています。

※表中にある火災種別、用途別、原因別は火災報告取扱要領の区分となります。

救 急

救急の現況

消防機関の行う救急業務は昭和38年に法制化され、伊万里市では昭和41年9月、有田町では昭和46年11月に救急業務を開始して以来、住民の生命・身体を守る上で不可欠な業務として定着しています。当消防本部では、より質の高い救急業務を実施するため救急症例検討会や地域医療機関での実習、毎月の救急処置訓練などで救急隊員の知識、技術の向上を図っています。そのような中、昨年から流行しております新型コロナウイルス感染症への対応は危機管理上重大な課題であるとの認識の下、状況を的確に把握し、この難局を乗り越えることができるよう、関係機関と連携・協力して病院前救護体制の充実を図っています。

※（ ）内の数字は、前年（令和元年中）の数字を表します。

1 出動件数・搬送人員

令和2年中における救急出動件数は、3,270件（3,469件）、搬送人員は3,006人（3,184人）となり、出動件数で199件の減少、搬送人員で178人の減少となりました。これは新型コロナウイルス感染症による市民の行動変容で外出自粛などが影響したと考えられます。

2 事故種別

出動内容を種別で見ると、急病によるものが58.3%と全体の半数以上を占め、次に転院搬送が16.4%、一般負傷が15.6%の順になっています。

3 年齢別

搬送された人の年齢別では、65歳以上の高齢者の割合が66.3%と最も高くなっています。

4 傷病程度別

搬送人員を傷病程度別で区分すると、中等症が53.2%、軽症が27.2%、重症が17.5%、初診時死亡が2.1%となっています。約3分の1が軽症であり、救急車の適正な利用が求められます。

5 ドクターヘリ

重症で緊急性の高い傷病者を、三次救急医療機関（救命救急センター）などへ34件搬送しました。【火災1件・交通事故2件・転院搬送4件・労働災害8件・急病9件・一般負傷10件】

救 助

救助の現況

救助活動は、火災・交通事故・水難事故などの各種災害から豪雨等に伴う自然災害、CBRNE（注1）災害などの特殊災害まで広範囲に及び、令和2年7月には豪雨で被災した熊本県に緊急消防援助隊佐賀県大隊として2隊7名が出動し、4日間にわたり活動を行いました。

これらの災害に迅速・的確に対応するため、各種救助資器材の計画的な更新整備や救助に関する教育訓練体制の充実に努めています。

また、令和3年3月には佐賀県防災航空隊が発足し、上空からの救助活動をはじめ、救急患者の搬送等の救急活動、風水害や地震など大規模災害発生時の情報収集及び物資の搬送など多方面に渡る活動が期待されます。

※（ ）内の数字は、前年（令和元年中）の数字を表します。

（注1）CBRNE（シーバーン）は化学（chemical）、生物（biological）、放射性物質（radiological）、核（nuclear）、爆発物（explosive）の頭文字。

1 出動件数・救助人員

令和2年中の救助出動件数は34件（30件）で、25人（28人）の要救助者を救助しています。

2 事故種別

救助出動における事故種別のうち、交通事故が44.1%、その他の事故が41.2%となっており、この2つが大部分を占めています。それ以外については水難事故が5.9%、機械による事故が5.9%、建物火災が2.9%となっています。